

循環型堆肥工場の建設に関することについて

要 旨

米価の下落や異常気象による農産物の減収が農業経営に大きな影響を与えており、環境の変化や土壌障害を克服できる農業へ切り替えることが急務である。安定した収穫とブランド化による希望のもてる農業経営の実現のため、民間資金構想（PFI方式）による良質な循環型堆肥工場の建設を進めることを求める。

理 由

近年の農業事情は高齢化が進み、組織化農業へと変化しつつありますが、その経営状態は極めて不安定な環境にあります。米価の下落や異常気象などで農産物の減収により農業経営に少なからず大きな影響を与えているのが現状です。

この数十年來化学農業を進めた結果、異常気象や土壌障害により、野菜にあっては作付面積の6割程度の収穫しかなく、米穀にあっては2割程度も減収になっています。このような状況下では、組織農業にあっては経営が困難になることが予測されますので、環境の変化や土壌障害を克服できる農業へ切り替えることが急務と考えます。

私達の会では、昨年の異常気象の中、米穀で7割程度の生産者が平年以上の収穫がありました。ハウストマトでは通常の1.5倍の収穫が確認され野菜全般では平年並みの収穫を確認しております。これも良質な循環型完熟堆肥と有用微生物を施用した結果と確信しております。大仙市では昨年バイオマスタウン構想の認可の受理をされたことを公表されております。この構想に基づき、この効果を有効的に利用し、安定した収穫とブランド化による、希望のもてる農業経営の実現のため、民間資金構想（PFI方式）による良質な循環型堆肥工場の建設を進めてくださいますよう、お願いいたします。

【実施の有効性と効果】

1. PFI方式は、民間事業者が資金調達・設計・建設・運営・維持管理の事業を、一貫したプロセスの全部または一部を公共が民間事業者に委ねる事業手法です。そのため、公共のリスクが少なく、財政支出が削減されることが期待できます。
2. PFI方式による循環型堆肥工場の建設により、地元資源を有効利用することで、良質で安価な循環型完熟堆肥を施用でき、土壌障害や異常気象を克服できる収益の高い農業経営の実現を図れます。
3. 循環型堆肥は、畜産堆肥に比べ肥料成分・ミネラル成分・完熟度が高く、土壌改良に適し、化学肥料以上の効果が期待できることから、農薬・化学肥料を大幅削減した独自の栽培技術を構築できます。それにより国内外の消費者に適応するブランド農産物の生産が可能となり、大仙の農業の活性化を図れます。
4. 農地への還元により、農薬・化学肥料の削減ができ、環境に対する負荷を軽減できます。
5. 循環型堆肥工場の建設により、生ごみ・し尿汚泥の焼却費（維持管理費・修理費・燃料等）のコスト削減が図れます。また焼却灰の処分地の使用年数の延長や、焼却炉を含む耐用年数の延長も図れます。さらに、焼却の減量によりCO<sub>2</sub>の削減にも大きく貢献できます。

平成23年2月16日

請 願 者 大仙市協和峰吉川字西窪37番地24  
大仙広域EM活用研究会  
会長 伊藤和廣  
紹介議員 金谷道男  
武田 隆

大仙市議会議長 児玉裕一様